

資料館だより

2025.7.18 No.127 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

「追悼の日」—当館館長が参列—

厚生労働省では、ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律の施行の日である6月22日を「らい予防法」による被害者の名誉回復及び追悼の日としている。本年は6月22日が日曜日となるため、6月19日に、厚生労働省正面玄関前及び講堂において行われた。式では、参列者が「追悼の碑」に献花。黙とう後、国側からは、厚生労働大臣、法務大臣、文部科学大臣、国会議員らが挨拶した。福岡資麿厚労相も「多くの苦しみと無念の中で亡くなった方々に哀悼の誠をささげる。偏見、差別の解消に向け取り組みを強化する」などと述べた。これに対し、^{たてやまいさお}堅山 勲 全原協事務局長、^{おくたけし}屋猛司 全療協会長、^{ファンファンナム}黄 光 男ハンセン病家族訴訟原告副団長は、国の取組みの不十分さを指摘し、強化を強く求めた。(内田博文)

リピート上映プログラムが新しくなります

— 当館映像ホールで随時上映 —

この度当館では映像ホールにて上映しているリピート上映プログラムをリニューアルしました。当館1階映像ホールでは、ハンセン病問題を解説するガイダンス映像、ハンセン病回復者による講演や証言映像をプログラム上映しております（イベント、団体見学プログラムなどで映像ホール使用の際を除く毎日）。

新しいプログラムでは、2020年以降に作成されたハンセン病回復者の方々の証言映像を多数視聴することができます。ハンセン病療養所に入所された回復者の経験や、ハンセン病療養所内での生活のありよう、国家賠償請求訴訟に参加した思いなどを知ることができます。また、ハンセン病療養所からの社会復帰者や、家族への差別と向き合ったハンセン病回復者のご家族の証言映像も新たに加われました。映像タイトルや上映時間はタイムテーブルをご覧ください。ご来館の際はぜひご利用ください。

(豊泉恵美子)

タイムテーブル

展示見学の前に、展示見学の後も、映像ホールにお寄りください

上映中 出入自由

09:30-14:00 知っている？ハンセン病問題 ～とどろく～ 初めての方にやさしい！ 漢字やカタカナの読み方！	09:50-14:20 平沢保治さん ハンセン病療養所入所者 11分 平沢さんからのメッセージ 3分	10:10-14:40 柴田すい子さん ハンセン病療養所での生活 12分 療養所の退所に向けて 13分 退所後の生活について 9分	10:45-15:15 宮崎かづあさん ハンセン病療養所にきて 2分
11:10-15:40 石山泰平さん ～療養所をでて社会で暮らす～ ハンセン病療養所からの社会復帰者の証言です。	11:30-16:00 林 力さん ～家族への差別と向き合ってきた～ 多くの苦しみと無念の中で死ななかった回復者、 ない暮らしながら、家族を支援して活動する 数少ない回復者の証言です。	12:00-13:00 平沢保治さん 佐川雅夫さん スウェーデンで暮らし 退所に向けた思い	

09:30 知っている？ハンセン病問題	13:00 回復者が語る (佐川さん)
09:50 回復者が語る (平沢さん)	14:00 知っている？ハンセン病問題
10:10 回復者が語る (柴田さん)	14:20 回復者が語る (平沢さん)
10:45 回復者が語る (宮崎さん)	14:40 回復者が語る (柴田さん)
11:10 社会復帰者が語る (石山さん)	15:15 回復者が語る (宮崎さん)
11:30 入所者家族が語る (林さん)	15:40 社会復帰者が語る (石山さん)
12:00 回復者が語る (平沢さん)	16:00 入所者家族が語る (林さん)

■ ホール内での飲食はご遠慮ください。 ■ 会場内での録音・録画・撮影はご遠慮ください。
■ その他、他のお客様のご迷惑になるような行為はご遠慮ください。
■ 貴重品などお荷物に十分ご注意ください。紛失盗難等について当館は責任を負いません。

国立ハンセン病資料館 2025.07

第46回 ハンセン病医学夏期大学講座開催!!

ハンセン病の診療は、現在では多くが一般の医療機関で実施されており、ハンセン病に関する基礎医学、診断、治療などの臨床医学のさらなる充実が求められています。

このような背景を踏まえ、医療関係者および医療系学生を対象に、ハンセン病に対する理解を一層深めることを目的として、本会を開催いたします。

(千代倉裕子)

【開催日程】 2025年8月19日(火)～20日(水)

【開催場所】 国立ハンセン病資料館等・オンライン

【開催方法】 Zoomウェビナーでの配信または現地参加（一部講義は配信無し）

【内 容】 1日目：総合コース、2日目：医学コース・看護コース・国際医療コース

【参加方法】 Googleフォームでの申込 ※参加費無料

お申し込みはこちら➡



ご案内 ギャラリー展「戦後80年—戦争とハンセン病」

当館では、2025年7月19日(土)～8月31日(日)の会期でギャラリー展「戦後80年—戦争とハンセン病」を開催します。戦争とハンセン病をめぐる日本の近代史をたどると、戦争がハンセン病患者の隔離を強化し、戦争が隔離下の被害をより深刻にしたことがわかります。本展では、「戦時下のハンセン病療養所」、「日本植民地下の療養所」、「沖縄戦」などに関連する資料を展示します。さらに従軍中にハンセン病を発症し、ハンセン病療養所への入所を余儀なくされたハンセン病回復者の経験をたどります。関連イベントとして、本展共催のしょうけい館の語り部をお招きする講話会、戦争とハンセン病問題の記憶をどのように展示するかをめぐるトークイベント、担当学芸員によるギャラリートークを開催します。戦争をめぐる記憶に触れ、それを継承することによって、人権が尊重され、病いと障がいとを理由とした差別が繰り返されない社会の実現を願って企画しました。ぜひご覧ください。(吉國元)

●ギャラリー展「戦後80年—戦争とハンセン病」

【会期】2025年7月19日(土)～8月31日(日) 【会場】国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー

●関連イベント

●トークイベント「戦争の記憶に触れ、それを継承すること」 半戸文(しょうけい館学芸員)×吉國元(本展担当学芸員)

【日時】7月26日(土) 14:00～15:30 【会場】国立ハンセン病資料館 1階映像ホール

【定員】100名 事前申込制(先着順) ギャラリー展公式ページで事前申込受付中

●しょうけい館語り部による講話会「捕虜と隔離が打ち砕いた人生」

概要:戦地で捕虜となり、オーストラリアの収容所でハンセン病が発覚。戦後はハンセン病療養所への入所を余儀なくされながらも、懸命に生きた立花誠一郎さんのお話をします。

【日時】8月2日(土)・8月10日(日) 各14:00～14:45

【会場】国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー 【定員】20名程度 事前予約不要

●担当学芸員によるギャラリートーク

【日時】7月19日(土)・8月11日(月・祝)・8月15日(金)*・8月24日(日)*・8月30日(土) 各14:00～14:40

【会場】国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー 【定員】20名程度 事前予約不要

*8月15日(金)と8月24日(日)はこども向けの展示解説を行います。夏休みの自由研究等にご活用ください。大人もご参加いただけます。



ギャラリー展公式ページ



ギャラリー展連動 図書室ミニ展示

展示スペースを鋭意準備中!



「ふる雪にかへる思ひはモンゴルの凍野に埋めし同胞のこと」

(政石蒙『短歌・随筆 花までの距離』より)

図書室では7月19日(土)～8月31日(日)期間で、図書閲覧室にてギャラリー展「戦後80年—戦争とハンセン病」と連動したミニ展示を開催いたします。

従軍経験のある回復者の詩や短歌、エッセイなどをはじめ、「戦争とハンセン病」をテーマとした文芸作品を中心に展示いたします。展示する資料はすべてお手に取ってお読みいただけます。「戦争」の現実をその目で見てきた回復者の方々が、なぜ自身の体験を書き残そうとしたのか。彼らが見てきたもの、聞いてきたこと、触れてきたものがどんなものであったのか。中庭を一望できる図書閲覧席でじっくりとお読みいただき、「戦争」と「療養所への強制隔離」という二重に苛酷な状況を生きた人々の言葉に触れ、想像しながら味わっていただければと思います。(斉藤聖)

詳細はこちら



ご案内 夏休みイベント「特別体験 重監房に入ってみよう」

【日程】8月2日(土)・8月11日(月・祝) 10:00～10:30/11:00～11:30(教員向け)/13:00～13:30/15:00～15:30

【対象】どなたでもご参加いただけます

※11:00～11:30の回は「教員のための博物館の日」と関連した内容となります。

【定員】各回5組

【申込方法】要申込。当館公式WEBサイトよりお申し込みください。

(牛嶋渉)

お申し込みはこちら



予告 家族との交流を示す手紙を展示

2025年度企画展「お父さん お母さんへ—ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙—」

「僕は今でもまだ祖母ちゃんが死んだと信じられません。まだ生きてるものとして毎日過ごしています。それは何故だと思いますか。」

ある少年が療養所の中から家族に対して出した手紙の一節です。祖母の死に目に会えなかったことに対する深い悲しみや怒りが伝わってきます。この少年が菊池恵楓園での中学生時代から、長島愛生園での邑久高等学校新良田教室時代の7年間に書いた手紙を紹介する展覧会を開催します。



展示する手紙

手紙は1961年～1967年の間に書かれました。手紙からは、一見すると、療養所の中でも社会の人々と共通するような生活が営まれているように思えます。しかし、社会復帰しようとする偏見・差別という巨大な壁が常に少年の前に立ちふさがりました。何より、この企画展では手紙の持ち主を偽名「勝彦」で表記しています。少年は現在77歳になりますが、本名を明かせないという点で壁は現在も存在しているのです。勝彦の前に立ちふさがる壁を壊すのは誰でしょうか。少年自身でしょうか。それとも家族でしょうか。あるいは、社会にいる私たちでしょうか。直筆の手紙を読みながら考えていただければ幸いです。

会期の初日にあたる9月27日(土)には手紙の朗読会を開催します。菊池事件を取りあげた映画「新・あついで」の主演を務めた俳優の趙珉和氏をお招きします。その他様々なイベントを開催予定です。決まり次第HPに掲載していきます。事前申し込み制のためお早めにお申し込みください。(田代学)

2025年度企画展「お父さん お母さんへ—ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙—」

【会場】国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー 【会期】2025年9月27日(土)～12月27日(土)

2025年度企画展朗読会「隔離された少年が家族へ書いた手紙」

【読み手】趙珉和 【会場】国立ハンセン病資料館 1階映像ホール

【日時】9月27日(土) 14:00～15:00 (開場13:30) HPからの事前予約制



企画展公式ページ

ご案内 学芸員とあるく「常設展示解説」

土日を中心に学芸員による展示室2の「スポット展示解説」を行っています。展示室2は、かつての隔離政策のもとでの、人権を無視した療養所の過酷な生活を展示しています。学芸員が大切なポイントに触れながら約30分間、皆さまと一緒に展示室を巡ります。初めてハンセン病問題に触れる方にもおすすめです。みなさまのご参加をお待ちしております。(占部好子)



【日程(7月～9月)】7月20日(日)・8月9日(土)・8月17日(日)・9月14日(日)・9月20日(土)

【時間】各回とも13:30～14:00

【定員】各回先着20名(事前予約不要。13時から受付で整理券を配布)



詳細はこちら

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2		1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
	休					解		休					解		休					
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
	休			休		★	講	夏	★	休		★		解	休		休	休		解
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
	休	休				ト	解	休			休				休	休	休			朗
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
	休						★	休					★		休					
							31													

休: 休館日 休: 図書室休室日 ト: ギャラリー展トークイベント 講: ギャラリー展講話会 ★: ギャラリートーク
夏: 夏休みイベント 朗: 企画展朗読会 解: 常設展示解説 黄: ギャラリー展開催 青: 2025年度企画展開催

哀悼 志村 康さん

志村康・国立療養所菊池恵楓園入所者自治会会長におかれましては、2025年5月1日、92年のご生涯を閉じられました。謹んで哀悼の意を表します。これまでの数々のご教授に深く感謝申し上げます。ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。志村氏は、1948年3月、旧制中学3年生のときに菊池恵楓園に入所されました。1963年に社会復帰されましたが、後遺症治療のために、1993年に再入所されました。「らい予防法」違憲国賠訴訟では第一次原告団副団長を務められました。独学に近い状態で憲法や法律を学ばれ続け、訴訟をけん引されました。違憲判決を勝ち取られ、違憲判決に基づくハンセン病施策の実施に向けて、開かずの扉をこじ開けられました。2014年から自治会長、そして、全国原告団協議会長として、ハンセン病問題の解決に向けた運動の先頭に立ち続けられました。当資料館の運営等についてもいろいろとご助言をいただきました。改めて深く感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2025年7月 国立ハンセン病資料館館長・内田博文



北川フラム／瀬戸内国際芸術祭実行委員会『瀬戸内国際芸術祭2025公式ガイドブック』(美術出版社、2025)

図書室より

今回ご紹介するのは、『瀬戸内国際芸術祭2025公式ガイドブック』です。

瀬戸内国際芸術祭(瀬戸芸)とは、「海の復権」をテーマとして3年に1度開催される国際的な現代アートの祭典です。直島をはじめとする瀬戸内海に浮かぶ島や香川県・岡山県の17エリアを舞台に、春・夏・秋の3会期にわたって、一流のアーティストによるさまざまな芸術が展開されます。

国立ハンセン病療養所・大島青松園のある大島は、開催地として2010年の第1回から参加しています。ディレクターが「大島のない瀬戸芸はない」と、ハンセン病回復者との対話を重ね、開催を実現しました。

大島では、絵本作家・田島征三の絵本の世界が展開される「青空水族館」や、美術家／ホーメイ歌手・山川冬樹が庵治から大島までを泳いで渡った映像作品「海峡の歌／Strait Songs」などの作品が、多様な観点や手法で隔離の問題を問いかけています。かつて大島青松園の入所者自らが掘り進め憩いの場所とした「相愛の道」をアーティスト・鴻池朋子が再び開通した「リングワンデルング」では、島の苛酷な生活区域から少し離れ、森のなかに安息を求めた入所者に思いを馳せることができます。

当館図書室では、公式ガイドブックのほかにも、瀬戸内国際芸術祭に関連する図書を多数所蔵しております。瀬戸内国際芸術祭とあわせて、ぜひ当館図書室に足をお運びください。(長谷川秋菜)

お知らせ

現在、「資料館だより」を、デジタル版を主とする形へ移行することを検討しています。読者のみなさまの移行に関するご意見を募集しています。下記連絡先までご意見をお寄せください。

国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30～16:30

■入館 無料

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交通
・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分(「ハンセン病資料館」下車)
・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分(「ハンセン病資料館」下車)
・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分

X



Instagram



出張講座案内



団体見学案内



〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>